

笈川小学校だより

# おいかわ

## 7月号

令和7年 6月27日発行

文責 校長 前田 敬

## 6年修学旅行



6月10日(火)・11日(水), 6年生16名が, 勝常小学校と合同で仙台・松島方面へ修学旅行に行きました。行程は, 1日目が「青葉城址」「仙台市内班別自主研修」「八木山ベニーランド」, 2日目が「五大堂・瑞巖寺」「松島湾遊覧」「仙台うみの杜水族館」でした。途中, 小雨も降りましたが, 思い出に残る大変楽しく時間が過ごせたようです。特に, 班別自主研修では, 5月中旬に修学旅行の事前研修として行った会津若松市内でのフィールドワークの経験を活かして, 班で協力し合いながら, 公共のマナーを守り, 自分達の計画に沿って食事をしたり, 施設見学をしたりすることができました。

## 5年宿泊学習



6月24日(火)・25日(水), 5年生12名が, 「いわき海浜自然の家」で勝常小学校と合同の宿泊学習を行いました。1日目は「磯遊び」「海浜オリエンテーリング」「ナイトハント」を楽しみました。2日目は, 「アクアマリンふくしま」に移動し, 班ごとに館内を見学しました。2日間の活動を通

して、友達と助け合い協力し合う姿が随所に見られ、心も体も一回り大きく成長してくれたようです。

## 6月校長講話より(概要)

6月16日(月)の「全校朝の会」で、子ども達に「いじめ」について考えさせたいと思い、次のような話をしました。

### 「わたしのいもうと」

今日は初めにイソップ童話の「こどもとカエル」を読み聞かせをします。



ある日のこと、5、6人の子どもたちが、池のそばで遊んでいました。その中の2、3人が、面白半分に池の中へ石をポンポン投げ始めました。

ところが、池の中には、たくさんのカエルが住んでいました。そして、子どもたちの投げた石に当たって、大勢のカエルがひどいケガをしました。とうとう我慢できなくなって、カエルの中で一番年を取っていたカエルが、池から出て、子ども達に、「池に石を投げないでください。」と言いました。

すると、子どもたちは、「ぼくたちは、何も悪いことをしていないよ。ただ、石を投げて遊んでいるだけだよ。」とこたえました。

しかし、年寄りのカエルは、「それは分かっています。でも、石を投げないでください。あなたたちには遊びでも、私たちにとっては『いのち』の問題なのです。石が当たって、死ぬかもしれないのです。」と言いました。

すると、子どもたちは、もう言い返す言葉もなく、石を投げるのをやめて、コソコソとどこかへ行ってしまいました。

自分には遊びや楽しいことでも、相手にとっては迷惑なことがあります。自分には何でもないことでも、相手にとっては「いじめ」になってしまうこともあります。相手の身になって行動できるようにしていきましょう。

今は「こどもとカエル」の話をしました。最後に、実際にいじめにあった子どもの話「わたしのいもうと」という絵本を読み聞かせします。(以下、省略)



講話後、6年生が感想を書いたので紹介します。

- 校長先生のお話を聞いて、改めていじめは良くないなと思いました。ぼくもたまに友達や妹に悪口を言うので、言葉で相手に伝えるときは、相手の気持ちや相手が言われて嫌な言葉を考えてしゃべろうと思いました。(鈴木 大麒さん)
- 自分が遊び半分でしていることでも、された相手からするといじめになることもあるし、もし相手が亡くなったりしたら自分は人を殺した事になる。(田村 采子さん)
- 校長先生の話聞いて、自分や自分達はお遊びでからかったりしていると思っていても、相手からしたら「嫌だな」「悲しい」など思ってしまうことがあるから、一つ一つの行動、言葉をしっかり考えないといけないなと思った。(獨古 知明さん)
- いじめられていた本人は傷ついたまま過ごしているのに、それに気づかないまま生活している人がいたら、いじめられていた本人が辛い思いまでして毎日を過ごしていたらとても不平等な世界になってしまうと思った。(神村 瞳月さん)
- いじめというのはこんなにも人生を大きく変えてしまうことが分かりました。これからも、人が嫌がってしまうことは極力やらないでいきたいです。(鈴木 祥陽さん)
- 言葉は簡単に相手を傷つけるということが改めて分かりました。いじめや誹謗中傷などは、自殺まで追い込むほどの力があるので、絶対にしてはいけないと思いました。これからも言葉遣いや相手の気持ちを考えて生活していこうと思います。(薄 こはるさん)
- 友達がいないとひとりぼっち。友達は大事だと思いました。(物江 玲花さん)